

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学概論	学年時期	1年 前期		
担当講師 (実務経験)	専任教員				
科目目標	1. 看護の歴史的変遷を通して、看護の概念、看護の機能と役割を理解する。 2. 看護倫理を学ぶことにより、看護師としての倫理的態度形成の基礎を理解する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	看護とは(定義と役割)	講義	専任教員	
2	2	看護の歴史的変遷① ナイチンゲールの功績 看護覚え書	講義	専任教員	
3	2	看護の歴史的変遷② ヘンダーソン：看護の基本となるもの	講義	専任教員	
4	2	ライフサイクルと看護 看護の対象として個人・家族、生活者	講義	専任教員	
5	2	健康に関わる日々の生活を支えること QOL 看護の基本概念	講義	専任教員	
6	2	看護の機能と役割 看護実践の特徴、連携、システム	講義	専任教員	
7	2	看護の対象理解①人間のニード、生活者と日常生活行動	講義	専任教員	
8	2	看護の対象理解②病者の理解	GW	専任教員	
9	2	看護の提供技術 看護過程と看護技術	講義	専任教員	
10	2	看護の本質とケアリング	講義	専任教員	
11	2	看護理論①	講義	専任教員	
12	2	看護理論②	GW	専任教員	
13	2	看護倫理①	講義	専任教員	
14	2	看護倫理②	GW	専任教員	
15	2	終了試験	試験	専任教員	
評価方法	終了試験の成績(80点)・授業参加・発表態度・課題レポート・GW成果物(20点)で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 ナイチンゲール著小玉香津子・尾田葉子訳：フローレンスナイチンゲール 看護覚え書 日本看護協会出版会 ニア・ヘンダーソン著湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 佐藤栄子著：事例を通して学ぶ中範囲理論入門 日総研				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学方法論Ⅰ	学年時期	1年次前期		
担当講師 (実務経験)	1. 専任教員（看護師：臨床実務経験有） 2. 感染管理認定看護師				
科目目標	日常生活を整えるために看護に必要な専門的知識・技術を活用して、安全・安楽・自立を考えた看護技術を習得する。 人間にとっての生体防御機能を理解し、感染管理を考えた看護技術を習得する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	ガイダンス ナイチンゲールの考える環境とは	講義	専任教員	
2	2	療養生活の環境 病室の環境のアセスメント調整	講義	専任教員	
3	2	ベッド周囲の環境整備 ベッドメイキングとリネン交換	講義/演習	専任教員	
4	4	ベッドメイキングの実際と注意点	演習	専任教員	
5	2	ベッド周囲の環境調整の実際と留意点	演習	専任教員	
6	2	臥床患者のリネン交換	演習	専任教員	
7	1	中間試験	試験	専任教員	
8	2	感染とその予防の基礎知識	講義	感染管理 認定看護師	
9	2	標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義	感染管理 認定看護師	
10	2	感染経路別予防策	講義	感染管理 認定看護師	
11	2	手指衛生 個人防護具の着脱	演習	感染管理 認定看護師	
12	2	感染性廃棄物の取り扱い 針刺し防止策	講義	感染管理 認定看護師	
13	2	洗浄・消毒・滅菌	講義	感染管理 認定看護師	
14	2	無菌操作 滅菌物の取り扱い 滅菌手袋の着脱	演習	感染管理 認定看護師	
15	1	終了試験	試験	感染管理 認定看護師	
評価方法	筆記試験(中間・終了)・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ) 配点率 1:50%、2:50%				
テキスト	ナイチンゲール著、小玉香津子ら訳：看護覚え書、日本看護協会出版会 系統看護学講座 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ[3]基礎看護技術Ⅱ[4]臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献					
備考	療養環境調整の技術チェックを実施する				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	基礎看護学方法論Ⅱ	学年時期	1年次前期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	コミュニケーション理論を活用し、実技を通してコミュニケーション技術を習得する				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	コミュニケーションを成立させる基本構造	講義	専任教員	
2	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義	専任教員	
3	2	医療におけるコミュニケーションの特徴	講義	専任教員	
4	2	ロールプレイ：コミュニケーション技法	演習	専任教員	
5	2	患者-看護師関係	講義	専任教員	
6	2	看護者として信頼関係を築くために必要なこと	講義	専任教員	
7	2	ロールプレイ：コミュニケーション技法	演習	専任教員	
8	1	終了試験	試験		
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 篠崎恵美子/藤井哲也著：看護コミュニケーション第2版 医学書院				
参考文献	稲田八重子他著：ペプロウ 人間関係の看護論 医学書院				
備考	コミュニケーション技術を活用しながらロールプレイを行う ロールプレイを行うことで看護者や患者それぞれの立場からの理解を深め、コミュニケーション技術を活用しながら学ぶ				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学方法論Ⅲ	学年時期	1年次 前期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	日常生活を整えるための看護に必要な専門的知識・技術を活用して、安全・安楽・自立を考えた看護技術を習得する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	科目ガイダンス、人間にとっての活動と休息の意義 他	講義	専任教員	
2	2	姿勢、運動の効果と安静による弊害、ボディメカニクス	講義・演習	専任教員	
3	2	基本的な体位、体位の特徴、体位変換の意義・目的	講義・演習	専任教員	
4	2	活動・運動の能力のアセスメントと援助方法、ポジショニング	講義・演習	専任教員	
5	2	体位変換（水平移動、上方移動）	演習	専任教員	
6	2	体位変換（仰臥位→各体位→仰臥位）とポジショニング	演習	専任教員	
7	2	体位変換（端座位→立位）、歩行介助	講義・演習	専任教員	
8	1	中間試験	試験	専任教員	
9	2	車椅子の点検、車椅子への移乗	講義・演習	専任教員	
10	2	車椅子での移送	講義・演習	専任教員	
11	2	車椅子での移乗・移送	演習	専任教員	
12	2	ストレッチャーの点検、ストレッチャーへの移乗・移送	講義・演習	専任教員	
13	2	休息の種類、睡眠のメカニズム、休息・睡眠のアセスメント	講義	専任教員	
14	2	休息や安楽を促す援助、リラクゼーション、タッチング	講義・演習	専任教員	
15	2	罨法（温罨法・冷罨法）	講義・演習	専任教員	
16	1	終了試験	試験	専任教員	
評価方法	筆記試験（中間・終了）・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 写真でわかる基礎看護技アドバンス インターメディカ				
備考	「人体の構造と機能」と「人間工学」の科目とも関連しているので、統合させて考えることが大切である。 体位変換の技術は、全身清拭の技術評価時に一緒に評価を行う。				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学方法論Ⅳ	学年時期	1年次 前期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	日常生活を整えるための看護に必要な専門的知識・技術を活用して、安全・安楽・自立を考えた看護技術を習得する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	食の基礎知識	講義	専任教員	
2	2	食に対するアセスメント	講義	専任教員	
3	2	食に対する看護の役割	講義	専任教員	
4	2	食事介助の実際①	演習	専任教員	
5	2	食事介助の実際②	演習	専任教員	
6	2	摂食・嚥下訓練	講義	専任教員	
7	2	非経口的栄養摂取の援助（経管栄養法）	講義演習	専任教員	
8	2	排泄の基礎知識	講義	専任教員	
9	2	排泄に対するアセスメント	講義	専任教員	
10	2	排泄援助の実際①（トイレ介助）	講義演習	専任教員	
11	2	排泄援助の実際②（床上排泄）	講義演習	専任教員	
12	2	排泄援助の実際③（オムツ交換と陰部洗浄）	講義演習	専任教員	
13	2	排泄障害時の援助（導尿）	講義演習	専任教員	
14	2	排泄障害時の援助（浣腸・摘便）	講義演習	専任教員	
15	2	終了試験含む	試験	専任教員	
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	吉田みつ子監修 新訂版 写真でわかる 基礎看護技術 アドバンス インターメディカ				
備考	人体の構造と機能を並行し学習している。自分自身の生活を評価する事から対象の食や排泄についてのアセスメントを行う。またグループワークや演習を組み合わせ、体験から対象の思いを理解し安全安楽な看護技術方法を学ぶ。				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学方法論Ⅴ	学年時期	1年次 前期		
担当講師 (実務経験)	専任教員(看護師:臨床実務経験)				
科目目標	1. 日常生活を整えるために看護に必要な専門的知識・技術を活用して、安全・安楽・自立を考えた看護技術を習得する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	清潔の意義、皮膚の構造	講義	専任教員	
2	2	清潔と衣生活のアセスメント、寝衣交換	講義	専任教員	
3	2	臥床患者の寝衣交換、片麻痺のある患者の寝衣交換	演習	専任教員	
4	2	入浴・シャワー浴・機械浴、整容	講義	専任教員	
5	2	入浴・シャワー浴・機械浴、整容	演習	専任教員	
6	2	全身清拭	講義	専任教員	
7	2	全身清拭	演習	専任教員	
8	2				
9	2	手浴・足浴、拭髪・洗髪	講義	専任教員	
10	2	手浴・足浴	演習	専任教員	
11	2	洗髪・全身清拭	演習	専任教員	
12	2				
13	2	口腔ケア、義歯の取り扱い、終焉時の援助	講義	専任教員	
14	2	口腔ケア	演習	専任教員	
15	2	終了試験含む	試験	専任教員	
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する。				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	看護技術プラクティス 1つひとつの根拠がよくわかる 写真でわかる 基礎看護技術アドバンス インターメディカ				
備考	全身清拭の技術チェックを実施				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学方法論VI	学年時期	1年 前期		
担当講師 (実務経験)	①専任教員（看護師：臨床実務経験あり） ②認定看護師				
科目目標	生命を維持する過程を理解するためのフィジカルアセスメント技術を学び、観察力、判断力を身に付ける基礎を習得する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは	講義	①	
2	2	フィジカルアセスメントに必要な技術	講義	①	
3	2	バイタルサインの観察とアセスメント	演習	①	
4	2		演習	①	
5	2	バイタルサイン測定技術演習	演習	①	
6	2	呼吸器系のフィジカルアセスメント	演習	②	
7	2	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義	②	
8	2	循環器系のフィジカルアセスメント	演習	②	
9	2	循環器系のフィジカルアセスメント	講義	②	
10	2	乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	講義	②	
11	2	腹部のフィジカルアセスメント	講義	②	
12	2	神経系のフィジカルアセスメント	講義	②	
13	2	筋骨格系・外皮系のフィジカルアセスメント	講義	②	
14	2	頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント	講義	②	
15	2	終了試験含む	試験	①②	
評価方法	筆記試験1回とバイタルサイン測定実技試験で総合的に評価する。				
評価基準	筆記試験6割以上と共に実技試験が合格基準に達していることとする。 配点率 ①：40%、②：60%				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 基礎・臨床看護技術第2版-根拠と事故防止からみた- 医学書院 熊谷たまき他監修 看護が見えるフィジカルアセスメントvol.3 メディックメディア 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	からだが見える 第1版 メディックメディア				
備考	バイタルサイン測定・観察技術チェックを実施する				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学方法論Ⅶ	学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員				
科目目標	科学的・論理的思考に基づき対象を理解し、対象に応じた看護を展開できる基礎的能力を養う。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	看護過程とは 問題解決課程・クリティカルシンキングの考え方	講義	専任教員	
2	2	情報収集の目的、情報の種類、情報収集の枠組み	講義	専任教員	
3	2	情報の整理	講義	専任教員	
4	2	情報の分析、解釈①	講義	専任教員	
5	2	情報の分析、解釈②	講義	専任教員	
6	2	アセスメントのまとめ	講義	専任教員	
7	2	看護問題の明確化、優先順位の決定	講義	専任教員	
8	2	看護目標、看護計画（具体策）	講義	専任教員	
9	2	事例展開①（データベース、病理的状态）	講義	専任教員	
10	2	事例展開②（アセスメント）	講義	専任教員	
11	2	事例展開③（アセスメント）	講義	専任教員	
12	2	事例展開④（全体像、看護問題）	講義	専任教員	
13	2	事例展開⑤看護計画、看護記録とは、クリティカルパスとは	講義	専任教員	
14	2	実施・評価の方法 看護サマリーの書き方 電子カルテの見方	講義	専任教員	
15	2	終了試験・まとめ	試験		
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する。				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	秋葉広子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、ヌーベルヒロカワ、2016 高木永子：看護過程に沿った対症看護、第5版 学研 2018 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの 日本看護協会、2019				
参考文献	看護がみえる 看護過程の展開 メディックメディア				
備考	看護過程とは、対象者にとって必要な援助を見きわめ、提供するための手段・方法論である。 この科目で看護過程の基本を学習し、各領域（地域在宅、成人、老年、小児、母性、精神）の看護過程に繋げていきます。 授業は、協同学習で学んでいきます。課題の提出状況、内容についても評価の対象に入れます。				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学方法論Ⅷ	学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	診療の補助における看護の役割を理解し、安全・安楽を考えた看護技術を習得する				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	与薬の原則・留意点、剤形と吸収経路、正しい与薬・管理	講義	専任教員	
2	2	与薬法の種類・目的・看護のポイント（薬効と副作用）	講義	専任教員	
3	2	経口的与薬法、口腔内与薬法	演習	専任教員	
4	2	吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬	演習	専任教員	
5	2	注射の基本的技術、注射の種類・目的・留意点	講義	専任教員	
6	2	注射方法とその特徴	講義	専任教員	
7	2	注射の準備、注射器と注射針の接続、薬液準備	演習	専任教員	
8	2	皮下注射	演習	専任教員	
9	2	筋肉内注射（中殿筋）（三角筋）	演習	専任教員	
10	2	静脈内注射	演習	専任教員	
11	2	点滴静脈内注射・経静脈栄養法	講義	専任教員	
12	2	点滴静脈内注射	演習	専任教員	
13	2	輸血管理と援助の実際	講義	専任教員	
14	2	輸血管理と援助の実際	演習	専任教員	
15	2	終了試験	試験		
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 写真でわかる基礎看護技アドバンス インターメディカ				
備考	与薬時の看護は、医師の指示のもとに行われる行為であり、種類や方法によっては、身体に大きな侵襲を与えるものである。そこで解剖生理学や既習の基礎看護技術からの知識・看護の視点をを用いて学習を進めてく。看護技術においては、技術習得はもちろんであるが、患者役を体験することで患者の心理状態にも関心が向くよう心がけて演習を構成する。				

分野	専門分野		単位数	1	時間数	45
授業科目	基礎看護学方法論Ⅸ		学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)	①専任教員（看護師：臨床実務経験有） ②認定看護師					
科目目標	診療の補助における看護の役割を理解し、安全・安楽を考えた看護技術を習得する					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	酸素療法（酸素吸入法）	講義	①		
2	2	排痰ケア①排痰ケアの基礎知識、体位ドレナージ、咳嗽介助、ハフティング	講義	①		
3	2	吸引（一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引）	講義	①		
4	2	吸入 次回演習準備GW	講義	①		
5・6	4	演習：酸素吸入、体位ドレナージ、吸入、一時的吸引	演習	①		
7	2	人工呼吸器の取り扱い	講義/演習	①		
8	2	胸腔ドレナージ	講義/演習	①		
9	2	褥瘡とは 褥瘡の深さの評価方法	講義	②		
10	2	褥瘡のアセスメントとケア	講義	②		
11	2	体温管理の技術 末梢循環促進法	講義	①		
12	2	創傷管理の基礎知識、創傷処置、包帯法	講義	①		
13	2	創傷処置（消毒、保護、テープ固定など）、包帯法	演習	①		
14・15	4	持続的導尿	講義/演習	①		
16	2	検査における看護の役割、検体検査と生体検査の基礎知識	講義	①		
17	2	血液学的検査と看護①	講義	①		
18	2	血液学的検査と看護②	講義	①		
19	2	各種穿刺と看護、各種検査と看護	講義/演習	①		
20・21	4	採血の技術、12誘導心電図検査	演習	①		
22・23	3	終了試験・まとめ	試験	①		
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院					
参考文献	竹尾恵子監修 看護技術プラクティス 第4版 学研					
備考	医師の指示のもとに行なわれる検査・処置は、種類や方法によっては、身体に大きな影響を与えるものである。そこで解剖生理や既習の基礎看護技術からの知識・看護の視点を復習して講義に臨むこと。					

分野	専門分野	単位数	1	時間数	30
授業科目	基礎看護学方法論Ⅹ：臨床判断	学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	健康問題や健康の段階によって変化する身体の反応を理解し、フィジカルアセスメント技術を活用しながら、臨床判断の基礎を学ぶ。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	臨床判断の基礎知識	講義	専任教員	
2	2	呼吸器系疾患患者に応じた気づき・解釈のトレーニング	GW 演習	専任教員	
3	2	・解剖生理・病態生理・薬理についての知識の確認 ・フィジカルイグザミネーションと観察項目		専任教員	
4	2	呼吸器系疾患患者のシミュレーション演習	演習	専任教員	
5	2			専任教員	
6	2	循環器系疾患患者に応じた気づき・解釈のトレーニング	GW 演習	専任教員	
7	2	・解剖生理・病態生理・薬理についての知識の確認 ・フィジカルイグザミネーションと観察項目		専任教員	
8	2	循環器系疾患患者のシミュレーション演習	演習	専任教員	
9	2			専任教員	
10	2	消化器系疾患患者に応じた気づき・解釈のトレーニング	GW 演習	専任教員	
11	2	・解剖生理・病態生理・薬理についての知識の確認 ・フィジカルイグザミネーションと観察項目		専任教員	
12	2	消化器系疾患患者のシミュレーション演習	演習	専任教員	
13	2			専任教員	
14	2	シミュレーション学習全体の振り返り	演習	専任教員	
15	2	まとめ・終了試験	講義・試験	専任教員	
評価方法	筆記試験・出席状況・授業への参加態度・課題の提出で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ[4]臨床看護総論 医学書院 解剖生理学 人体の構造と機能(1) 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ呼吸器、循環器、消化器、運動器、脳神経、腎・泌尿器、内分泌、代謝 医学書院 熊谷たまき他監修 看護がみえるフィジカルアセスメント 電子書籍 e-ナーストレーナー 医学書院				
参考文献	からだがみえる 第1版 メディックメディア 菱沼 典子著 看護につなげる形態機能学 メジカルフレンド社				
備考					

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	看護研究	学年時期	2年 後期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師(大学准教授)				
科目目標	看護研究の必要性を学ぶことによって、看護の専門性や独自性を理解する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	看護研究とは 研究の意義・目的	講義	非常勤講師	
2	2	文献検索 必要性と方法	講義・演習	非常勤講師	
3	2	研究デザインの種類と特徴	講義	非常勤講師	
4	2	看護研究と倫理 倫理的配慮の必要性	講義	非常勤講師	
5	2	クリティーク 研究方法 データ収集と分析	講義	非常勤講師	
6	2	研究計画書とは 考え方と書き方 研究計画書作成	講義・演習	非常勤講師	
7	2	研究計画書とは 考え方と書き方 研究計画書作成	演習	非常勤講師	
8	1	終了試験	試験	非常勤講師	
評価方法	終了試験の成績と研究課題の成績で総合的に評価する				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	足立はるゑ著：ワークシートで研究計画書がラクラク完成 改訂4版看護研究サポートブック メディカ出版				
参考文献	黒田裕子著：黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版 医学書院				
備考	集中講義の予定				